

令和2年度 自己評価結果公表シート

学校法人有緝学園 有緝こども園

1. 園の教育目標

幼児教育は、家庭との連携を図りながら、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切なものであり、幼児教育の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。このため、教職員は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共により良い教育環境を創造するように努めるものとする。

- ①健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う。
- ②自立心を育て、人とかかわる力を養う。
- ③環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
- ④自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
- ⑤感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

- ①安心・安全な園づくりの推進、衛生管理の徹底
- ②教育・保育の内容についてさらなる向上を目指す
- ③小学校へのつながりを意識していく
- ④園外研修に積極的に参加し力量の向上に努める

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
安全・安心な園づくりの推進 衛生管理の徹底	毎日の保育室点検に取り組んだ。また、月1回の安全点検を各分担場所ごとに実施し、危険個所の発見に努めた。また修理・修繕の必要な個所は迅速な対応に努めた。ICTシステムの導入により、保護者への連絡が迅速になり安心な園づくりの一助となっている。 新型コロナウイルス対策では、対応マニュアルも作成し、日常的に清掃・消毒に努めた。また外来者・職員・園児も検温・手指消毒・手洗いなどの対策を実施した。
教育・保育の内容の向上	「にこにこ どんどん 思いやり」のキャッチフレーズのもと、園児の主体性を重視した教育・保育活動を実施した。行事指導や制作活動などを通し園児の興味・関心・意欲・表現力を高めた。 作品展では、どの学年も園児の「主体性」を根底に据えて材料・アイデア・製作過程などその子なりの発想を大事にし、個性的で画期的な作品展になった。
小学校へのつながりを意識する	新型コロナウイルスの影響で、有緝小学校との交流が中止となり、見学のみとなった。また職員の意見交流

	も中止となり、引き継ぎのみとなった。 しかし年長組では、見学を活かして「小学校」をテーマにした人物・教室・道具などを手作りし、小学校へのつながりを意識した活動を展開した。
園外研修への積極的な参加 職員の力量の向上	園外研修も新型コロナウイルスの影響でほとんどの研修会が中止となった。しかし、リモート研修での研修は積極的に受講し教育保育技術・知識を増やすことができた。園内研修では、「様々な活動に主体的に関わる子どもを目指して」をテーマに、2学年で公開保育を実施した。一人ひとりの発想を大事にした制作活動を展開し、それが、これまでにない作品展の実現につながった。また作品展後も、作った作品を使った遊びや絵本作りを展開するなど、継続性のある活動ができた。

4. 学校評価の総合的な評価結果

令和2年度は認定こども園に移行して3年目となった。園の運営も職員の努力と工夫で円滑に進められるようになってきている。自己評価の結果も、全体的にはAとBの肯定的な評価がほとんどであり、良い結果となっている。しかし、この1年は新型コロナウイルスの影響で、日常生活も各種行事も大きな影響を受けた。衛生管理の見直し、行事の見直しなど業務の改善につながる点もあった。

園の運営・職員間の連携・危機管理・情報発信などは努力の成果が表れている。ただ、教育目標の意識化、衛生管理の徹底、異年齢交流など改善の余地のある点もあった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育目標の意識の強化を継続する (にこにこ どんどん 思いやり の具現化)	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を通じて質の高い教育保育を目指す。 ・全職員に適宜資料を提供し、理解を深める。 ・園外研修にも積極的に参加していく。 ・研修テーマに、「主体的に関わる子ども」を設定。
新園舎での危機管理体制、特に新型コロナ対策の継続を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月避難訓練を実施し避難方法を習熟する。 ・毎日の点検活動と、毎月の安全点検を実施する。 ・新型コロナ対策や新しい生活様式の継続を図る。 ・新型コロナ対応下での行事の在り方を検討する。
園内自然環境の整備、外での遊び方や異年齢交流を工夫していく	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜や花などの栽培を継続し、自然環境の充実に努める。 ・外遊びの安全管理に努め園児の見守りに留意する。 ・異年齢交流の機会、方法を検討していく。
園児の個性を尊重した保育（個別支援も含む）についての取り組みをすすめる	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性を尊重しその子の個性を伸ばす保育をさらに進めていく。 ・個別支援の必要なケースについての研修をすすめる。 ・教材教具、保育室環境、声掛けの仕方など情報交換をすすめる。